

ハイゲージニット生産日本一の会社が挑む、 シルエットを重視したジャケット作り



第一ニットマーケティング 株式会社

📍 新潟県見附市柳橋町270-1
☎ 0258-66-4513
🌐 <http://daiichiknitmarketing.co.jp/>
■ 繊維工業



会社WEBサイト

私たちについて

ハイゲージニット生産量日本一。 時流を読み、柔軟に変化してきた

細かく編み込まれた「ハイゲージニット」の生産量が日本一を誇るニット会社。創業時は近藤商店として問屋業を営んできた。一時的にYシャツやジーンズなどの布帛（ふはく）の縫製へ参入したものの、次第に生産は人件費の安い海外工場へ。そこで目をつけたのが、まだ主流ではなかったハイゲージニットの製造だった。以来、原系の提案から編み立て、販売までの一貫した生産体制と立体的なニット製造を強みに事業を展開してきた。また、自社ブランド「Primer（プリメーラ）」も立ち上げ、本社脇に実店舗も構えている。



きっかけ

提案の幅を広げるため、 ニットジャケット開発へ

国内のニット産業は海外からの輸入比率が97%以上と安価な輸入品に押され、厳しい状況が続いている。そこで、ニットの新たな使い方を提案できないかと考え、目をつけたのがニットジャケットだった。ニットというと、セーターやカーディガンなどのイメージに囚われがちだが、薄手ニットの上に羽織れるジャケッ



トがあれば提案の幅が広がる。しかし、ニットをジャケットにすると型崩れをおこし、形状を保つことが難しいといった課題があった。



取組の内容

シルエット重視のジャケットで 販路拡大を目指す

ものづくり補助金を活用し、伸縮性を抑えた編み方が可能なインレー編機を導入。通常、ニットを編む場合は糸と編針でループを作りながら編むが、この機械では縦糸と横糸を交差させながら作る織物と同じ編み方が可能。そうすることで、ジャケットに適した編地ができる。ニットジャケットを作る場合は、ボデ

ィ・袖・襟などの各パーツをパターン通りに編立をする。各パーツはアイロンでセットをした後、1本の針で上糸と下糸を縫い合わせる「本縫いミシン」で組み立てる。この手法で作られるニットジャケットは一般的なジャケットと比べて軽く機能性もあり、暖かさを感じられる商品となる。また、インレー編機は、2種類の糸を合わせた糸や螺旋状に巻きつけられたものなど、多種多様な糸を編立てることも可能。そのため、ニット生地自体のバリエーションも広がった。結果、シルエットを重視したニットジャケットを製作したことで、自社ブランドのラインナップを増やすこともできた。



その後の展開

ジャケット製作を皮切りに 挑戦を繰り返す

自社ブランド「プリママリエリア」のブランド確立に向けてカタログを制作。イメージ商品としてインレー編機で作製したジャケットを発表した。現在は銀座和光での販売を継続している。さらに2020年には、日本貿易振興機構（ジェトロ）新潟貿易情報センターと組み、新しいブランド「30/70（トレンタ・セタンタ）」を立ち上げた。製品の素材はシルク30%・カシミア70%で、コンセプトは「究極の普通」。ファッションディレクターの干場義雅氏を監修として迎え、シンプルなデザインと黒の無地に絞った。他にも、着物とニットを組み合わせた新ブランドも立ち上げ中。シルエットを重視したジャケットを製作した平成25年度ものづくり補助金を皮切りに、多様な変化を遂げている最中だ。



message

世界的に有名なブランドのデザイナーを勤めた人物とのコラボレーションも決まっています。当社だからできることをこれからも突き詰めていきたいですね。

取締役 山崎 秀一 氏